

技術資料 #92

インフォメーション

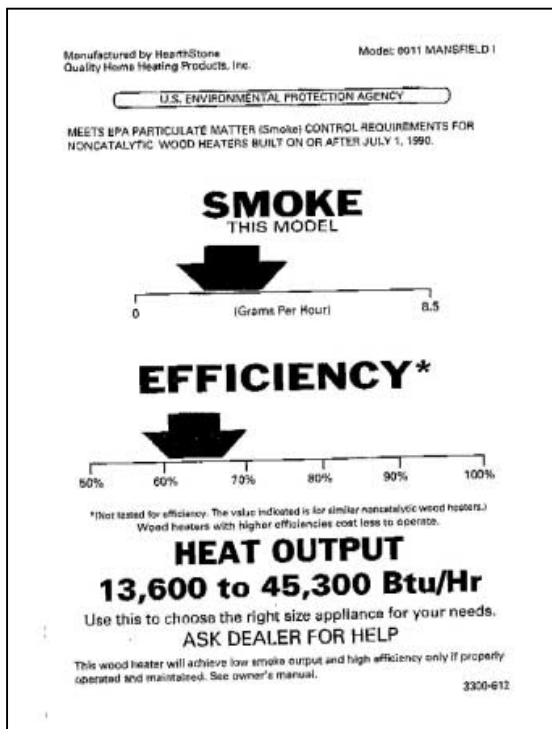
EPA Hang Tags

1970年初めから1980年の終わりにかけ、薪ストーブはポピュラーになりました。

薪ストーブの使用数の増加により、環境に対する懸念も増えました。

ワシントンとコロラドで薪ストーブから排出される煙の量に対し制限することを始めたとき、連邦政府は全国的な一つの基準を設けることを決定しました。

1988年に現在のEPA基準の第一段階が設立されました。1990年に第二段を発行しました。EPA基準をパスしたストーブには下記のようなタグが付けられています。(クックストーブ・石炭ストーブ・重量800Kg以上のストーブ等は適用外)



表示説明

1) SMOKE: 煙

1988 以前のストーブは、煙に含まれる微粒子が 1 時間あたり 60~80 グラムでした。これらの微粒子は主に未燃焼の木質粒子及び他の汚染物質から成ります。EPA 必要条件は触媒燃焼機器で 4.5 グラム/時 非触媒燃焼機器で 7.5 グラム/時です。

触媒型と非触媒型の規制の違いは、触媒の劣化（5 年の平均寿命）を考慮した数値です。

2) EFFICIENCY: 効率

EPA では効率を（各モデルやブランドすべて）試験しません。表記の数値は一般的なデフォルト効率です。

触媒型のストーブは約 72% : 非触媒型は約 65%

3) HEAT OUTPUT : 熱出力

薪の種類と含水率により発熱量が変化するため、測定にはダグラスファーを使用しています。

従って、EPA ハングタグに表記されている 3 つの数値のうち、比較に使用できるものは「SMOKE」のみです。ハーストーンの薪ストーブは最も低いモデルで 1.9/時を記録しています。